

2007 紙パックリサイクル 年次報告書

Paper carton recycling Annual report



全国牛乳容器環境協議会



「紙パックリサイクル年次報告書2007」 発行にあたって

限りある資源を有効に利用して、美しい地球の環境と豊かで恵まれた生活を未来の子どもたちに引き継いでいくためには、環境と経済が両立した持続可能な循環型社会を構築していくことが必要であり、そのためには、廃棄物の発生を抑制し、再使用し、再生利用する「3R」を、関係者が連携して促進していくことが求められています。

紙パックは、「うえる・そだてる・つかう」ことにより再生可能な森林資源を有効利用して作られている環境性の高い容器であり、また中身を飲用に供した後は、「洗って・開いて・乾かして」分別回収することにより、良質な資源として再生利用が可能です。このことから、紙パックのリサイクルは森林資源の節約ばかりでなく、エネルギー使用やCO₂排出などの環境負荷の低減に大きく寄与します。

紙パックリサイクルは、20年以上も前から『全国牛乳パックの再利用を考える連絡会』をはじめとして、多くの市民グループ、自治体、関係事業者の方々のご努力により、さまざまな方法で自主的にかつ効率的に行われており、その回収率は年々増加し、2005年度の回収率は36.2%に向上しました。昨年6月には容器包装リサイクル法が改正され、本年4月に施行されます。この改正趣旨に沿って、全国牛乳容器環境協議会では2005年4月に設定した「2010年度に紙パック回収率を50%以上に向上する」目標に向けて、自治体、消費者との連携を強化した新たな行動計画である「プラン2010」を立ち上げているところです。

本年度も、「牛乳パックリサイクル促進地域会議」や「牛乳パックリサイクル講習会」を全国で開催するとともに、回収ボックスの無償提供による回収拠点10,000ヵ所以上拡大活動の推進など、『全国牛乳パックの再利用を考える連絡会』との連携を強化して消費者への啓発活動を進めてまいりました。また、製品への環境キャンペーン広告掲載、森林の市やエコプロダクツ展への出展など、紙パックリサイクルの普及促進活動を拡大して実施しております。

このたび全国牛乳容器環境協議会の活動を取りまとめ、「紙パックリサイクル年次報告書2007」を発行いたしました。今後とも紙パックリサイクルにかかわる関係者との連携を強化し、普及活動に努力するとともに、学乳紙パックのリサイクルを通して環境教育が進展するよう啓発活動を進めていく所存ですので、ご一読いただき、ご意見、ご指摘をお寄せいただきたくお願い申し上げます。



全国牛乳容器環境協議会
会長

小野田 顕正

2007年2月

紙パック回収率向上のための アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会(以下 容環協)では、「2010年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率・リサイクル率向上を目指しております。具体的な取り組みは以下の通りです。

【目標】
紙パック回収率 **50%以上**
2010年度

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進する。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開してまいります。

【主な取り組み】

- ①牛乳パックリサイクル促進地域会議および牛乳パックリサイクル講習会の開催。(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(以下 全国パック連)と共催)
- ②モデル地域集中プロジェクトによる地域回収ルートの普及拡大。(全国パック連と共催)

- ③回収ボックス提供による10,000ヵ所拠点拡大のさらなる展開。(全国パック連と協働)
- ④自治体への協力。(メッセージBOXキット、小冊子、ビデオ等、啓発ツール提供)
- ⑤小中学生に対する啓発促進。(子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パック探検隊」の運営)
- ⑥環境キャンペーン。(商品への環境メッセージ広告掲載)
- ⑦紙パック工作コンクール協賛。
- ⑧紙パックLCA調査研究の活用。
- ⑨環境イベントへの積極的参加。(牛乳パックの再利用を考える全国大会、エコプロダクツ展、森林の市)
- ⑩飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査および、回収量拡大のためのフォローアップ。
- ⑪学校給食用牛乳パックのリサイクル促進モデル事業推進。
- ⑫ホームページの拡充。
- ⑬行政、自治体、市民団体、全国パック連、リサイクル団体、関係事業者等との協議の場を設け、連携強化を図る。
- ⑭再生紙メーカーとの連携強化、リサイクル製品の利用拡大。
- ⑮紙パックリサイクル年次報告書発行。

「容環協」とは?・・・全国牛乳容器環境協議会

「容環協」は、牛乳パックなど紙パックのリサイクルを促進している組織です。

CONTENTS

活動トピックス

全国パック連との連携	2
牛乳パックの再利用を考える全国大会	3
牛乳パックリサイクル促進地域会議	4
牛乳パックリサイクル講習会	6
回収拠点拡大	7
エコプロダクツ2006・森林の市	8
牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール	9
容環協の取り組み	10
LCA調査	13

活動報告ダイジェスト

2005年度の紙パック回収率	14
2005年度 紙パックマテリアルフロー	16

2006年度活動報告

小売事業者のリサイクル状況	18
福祉作業所の回収状況	19
市町村回収・集団回収の状況	20
学校のリサイクル状況	22
再生紙メーカーのリサイクル状況	23

紙パックのリサイクル学

「森林のライフサイクル」と「紙パックリサイクル」	24
容器包装リサイクル法	26

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ	27
会員一覧	28



いっそうの回収率アップを目指し「全国パック連」と連携していきます。

『2010年度紙パック回収率50%以上』という目標達成には、回収量調査(P14)からもわかるように、家庭系紙パックの回収量増加が不可欠と考えられ、そのためには、①スーパー等の店頭回収の促進、②家庭へのリサイクル周知、③再生商品の利用拡大・購入拡大が必要となります。

またその量をまとめるプロセスにおいては、市民の協力が大前提であり、実際の回収ルート構築には、回収拠点を生活エリアに設置し、既存のシステムを有効利用し、お互いにかかわる人の顔が見えるネットワークを作ることが大切となります。

こういう状況の中で、容器包装リサイクル法施行以前から、20年以上に渡る活動実績を持ち、地道な回収ルート作りをし「洗って・開いて・乾かして」という海外からも資源の質を高めるとして注目されている方法を実践してきている「全国パック連」は、市民に向けた啓発、回収ルートの構築上、重要な存在であり、容環協は今後も積極的に協働連携してまいります。

「全国パック連」の20周年イベントが盛大に開催されました。

「全国パック連」の20周年記念集会&記念パーティーが、2006年7月28日(金)に甲府・富士屋ホテルで開催されました。当日は農林水産省西野室長、経済産業省井内課長、丸富製紙株式会社佐野会長の祝辞をはじめ、100人以上が出席される中、長年の歩みを振り返り、和やかな歓談が続きました。

牛乳パック再利用運動は、1984年に山梨県の平井初美氏を代表とする主婦グループから「牛乳パックを捨てるのはもったいない」「ものの命の大切さを子どもたちに伝えたい」という子育ての気持ちがこめられて始まった運動です。全国に広がった再利用運動に取り組む市民団体に情報提供・支援するために、1985年「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」を結成。以降、循環型社会構築、環境保全の普及啓発、環境教育、海外の紙パック再利用活動支援などに取り組んできました。

またこれまでの活動に対し、6月には環境保全功労者賞を受賞。今後も、さまざまな交流や情報発信の場の中心的役割を担われ、いっそうのご活躍を期待します。

第20回の全国大会を活動発祥の地・山梨で開催。

2006年7月29日(土)、30日(日)に第20回全国大会が活動発祥の地、山梨県で開催されました。今年のテーマは、「始めの一步はもったいない 発祥の地からつなぐじゃん!」。容環協も協賛し、関係各社、行政関係者など約500人が参加しました。

1日目の開会セレモニーでは、全国パック連の平井成子代表が、「20年間の歩みを振り返りつつ、その成果をこれからの新たな一歩にどうつなげていくか、一人ひとりが考えていく機会に」と挨拶され、これまでの大会の歩みを振り返るとともに、その運営に携わってこられた全国の多数の方々への感謝の意を表されました。また来賓挨拶では、山梨県知事から「“もったいない”の先駆的取り組み運動である」との評価をいただき、甲府市長から「自分が生きている大地はまだ生まれていない子孫から預かったものだから大切にしよう」とのお話がありました。

またその後、「リデュース(無駄をなくして)・リユース(何度も使って)・リサイクル(生まれ変わって)・レッツ循環型(もったいない)社会」をテーマに記念シンポジウムを開

催。環境省藤井室長からは、容器包装リサイクル法の改正内容の説明をはじめとして、これからの循環型社会推進のためには、消費者、自治体、事業者など、さまざまな主体間の連携が重要とお話がありました。作家・池田香代子氏の「100人村からつなぐ自然・いのち・くらし」の講演もありました。

2日目には5つの分科会が行われ、「もったいないじゃん・ぐるぐるまわして使うじゃん」「牛乳パックの原点は生き方と子育て」「ちよっくら寄って食ってけし!~話して・食べて・考える~」「コラボレーションでお仕事しようず」「牛乳パック全国情報交流会」のテーマについて、自治体、市民団体、事業者が討論し、事例紹介や意見交換が熱心に行われました。

「地域持ち回りの実行委員会方式による大会の開催は、とりえず今回をもって一区切りとし、また新しい形でさまざまな交流や情報発信の場を設けていくので、そこで再会しましょう」との平井代表の約束表明があり、盛況のうちに終了となりました。



全国パック連 平井代表



丸富製紙 佐野会長



全国大会交流会



容環協展示コーナー



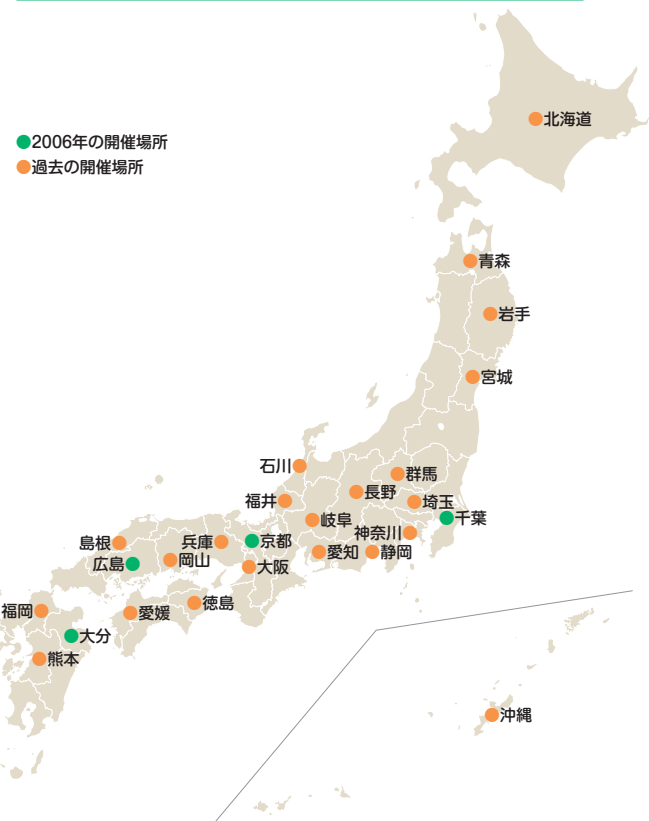
牛乳パックリサイクル促進地域会議

牛乳パックリサイクルにおける地域ごとの課題や現状を把握。

容環協と全国パック連の共催により、全国各地で開催している「牛乳パックリサイクル促進地域会議」。2006年も大分を皮切りに、広島、京都、千葉の4ヵ所で開催されました。この会議は、牛乳パックのリサイクルにおいて、地域ごとの課題や現状を把握することを目的にしており、同時に関連施設の視察も行われています。

各会議とも自治体、関連メーカー、市民団体など、多彩なメンバーの参加を得て、さまざまな事例を紹介。関係者が相互に理解を深め、よりいっそうリサイクルを推進していくことを誓い合いました。

地域会議の開催場所



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 大分 / 大分市

- ◆開催日 2006年1月19日(木)
- ◆参加者 自治体、乳業メーカー、製紙メーカー、古紙事業者、福祉作業所、市民団体など計35名

【主な報告や問題提起】

- 大分県では21市町村のうち、8市町村が紙パックを分類して分別収集。別府市では5ヵ所の拠点回収やスーパー店頭回収を行っています。多くが燃えるゴミに含まれているのが現状。
- 福祉作業所、市民団体からは、年間25トン集まっていた紙パックが、行政による資源回収が始まり12トンに半減したとのこと。
- 再生紙メーカーから、中国への輸出の関係で古紙原料が不足しており、学乳パックは歩留りが悪いが、「洗って」「開いて」質が向上した物なら、積極的に取扱いたいとの意見がありました。

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 広島 / 広島市

- ◆開催日 2006年2月2日(木)
- ◆参加者 自治体、乳業メーカー、製紙メーカー、古紙事業者、福祉作業所など計42名



【主な報告や問題提起】

- 広島市では家庭系ゴミの有料化で、ゴミが34%減量、資源物が15%増加。

- 古紙業者からは、運賃コストを抑える点から、家庭の紙パックも学校に集めてもらうと、量がまとまり効果的との意見がありました。
- 乳業メーカーからは、空容器は持ち帰りしないことになっているが、牛乳普及協会で学乳パックリサイクルの補助をしているので、活用してほしいとのこと。

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 京都 / 京都市

- ◆開催日 2006年6月22日(木)
- ◆参加者 自治体、乳業メーカー、古紙事業者、福祉作業所、市民団体など計46名

【主な報告や問題提起】

- 京都市から、行政と市民の協働によるゴミ減量推進会議の取り組みの報告があり、1999年から学乳パックのリサイクルを実施。オリジナルのトイレットペーパーの販売も行っているとのこと。
- 家庭の紙パックを学校で回収したり、市民センターなどに回収ボックスを設置するなどして、回収促進に取り組んでいます。今後は喫茶店チェーンの掘り起こしや1,000ml以外の紙パックに目を向けることも有効では、などの報告がありました。
- 福祉作業所からは、はがき以外に手すき名刺など用途開発も必要で、出口を広めるため企業の協力もお願いしたいとの報告がありました。



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 千葉 / 千葉市

- ◆開催日 2006年11月29日(水)
- ◆参加者 農水省、自治体、乳業メーカー、古紙事業者、市民団体など計39名

【主な報告や問題提起】

- 農水省からは、学校における環境教育の取り組み推進を法制化するが、小学生からの環境教育の必要性からみて学校給食の牛乳パックのリサイクルは役立つのでは、とのこと。
- 自治体からは、県のゴミリサイクル率は全国3位以内であるが、紙パックのリサイクル率は低いものの他のリサイクルにつながる波及効果もありさらに取り組む、とのこと。市では、昨年はモデル地区の拠点回収、集団回収を進め、今年10月から全域に拡大し効果が上がってきている、とのこと。
- 学校での取り組みは、区市、教育委員会、学校、校長会、PTAで協議を始め話し合っって少しずつ進めることが大事、草加市の努力の事例や回収ルート関係の紹介など協力できるので主催者側へ相談を。
- 古紙事業者からは、紙パックは1,000mlだけでなく500mlや清涼飲料でも回収可能であることをもっと周知しては、とのこと。





牛乳パックリサイクル講習会

回収拠点拡大

全国で開催。
子どもたちとリサイクルを
体験しました。

回収ボックス提供個数が、
間もなく目標の10,000個に。

紙パックリサイクルの現状を把握し、実際の回収ルールを体験してもらうことで、牛乳パックの回収に興味・関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。

2006年は大阪2ヵ所、別府、西宮、旭川、豊洲(2回)、筑西、松山で開催。各講習会で、リサイクルの現状を報告するとともに、「洗って・開いて・乾かして」という回収ルールも体験。参加した子どもたちにも、牛乳パックのリサイクルを身近に感じてもらう一日となりました。

【西宮】

西宮市では、環境学習都市を宣言して地域福祉モデルを立ち上げ、牛乳パックの回収・リサイクルを積極的に推進しています。当日は、あいにく雨模様でしたが、リサイクル活動推進中の「社会福祉法人新生会作業所」からの参加者もあり、手すきはがき作りや手作り工作教室を実施しました。

【大阪】

夏休みも終わりに近づいた8月26日(土)、大阪市立鶴見区民センターに、「鶴見区母と子の共励会」の呼び

かけで43名が集まりました。牛乳パックの特徴やリサイクルの意義を理解した後、紙すき、工作を実演。夏休みの宿題として子どもたちに大好評でした。

【旭川】

明治乳業(株)旭川工場で開催しました。紙パック回収運動の歴史や森林の有効利用などを説明しました。その後、2班に分かれ、工場見学と手すきはがき作りを体験。回収された紙パックがいろいろな方法でリサイクルされることを実感していただきました。

【豊洲】

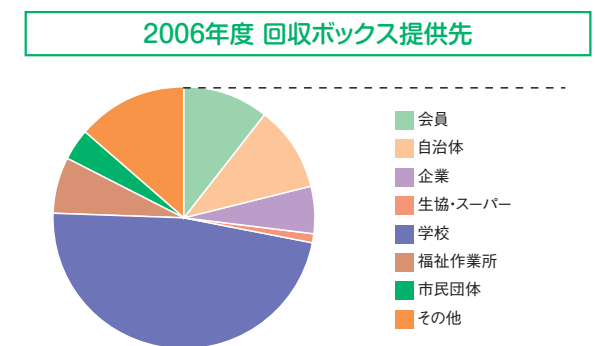
8月に実施された食育イベントに、見学に来られた自治会役員のご努力により開催が決まりました。10月22日(日)、豊洲・東京フロントコート集会室で実施。紙パックリサイクルの説明、事例ビデオ鑑賞に続き、手すきはがき作りや工作に挑戦。子どもたちも紙パックリサイクルへの理解を深めました。



容環協では2001年より回収拠点の拡大を目指して、回収ボックスの提供を進めてまいりました。提供数は、下表のように着実に伸張し、目標とした10,000ヵ所に手が届くところまでできました。

回収ボックス提供状況		
	各年度合計	年度累計
2001年度	930個	930個
2002年度	1,275個	2,205個
2003年度	1,415個	3,620個
2004年度	1,725個	5,345個
2005年度	2,270個	7,615個
2006年度(12月末まで)	2,050個	9,665個

2006年度の提供先を見てみると、学校関係が最も多く、自治体、福祉作業所、会員・企業、市民団体などに提供されています。



回収ボックスの提供先では、新たな回収拠点として多くの紙パックが集められています。提供の半年後に行っているアンケートには、「回収ボックスはよく目立ち、子どもたちも興味を引かれて、多く持ってくるようになった」といった意見が多く寄せられています。

また「回収された紙パックがどのようにリサイクルされて、どんな物になるのか?」という疑問にお答えするために、回収ボックスとともに、リサイクルの工程を示し、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙ひもなど、紙パックから作られる再生品の展示も行うなどの啓発ツールをセットにした「メッセージBOXキット」も、主に市町村のリサイクルセンターなどに設置させていただいております。

容環協では10,000個達成後も、継続して回収拠点の拡大を目指してまいります。さらに、これまでみなさまからお寄せいただいたご意見を参考に、現在、第2世代の回収ボックスを企画中です。

- 中に入れた紙パックを取り出しやすく
 - もっと、子どもたちから愛されるデザインを
- 等々、より良い回収ボックスを目指しておりますので、ご期待ください。





クイズや工作コンクール表彰式も。国内最大級の環境展に出展。

【エコプロダクツ2006】

2006年12月14日(木)～16日(土)に東京ビッグサイトで開催された国内最大級の環境展「エコプロダクツ2006」に出展しました。

ブースは「全国各地の牛乳パック展示」を中央に、「森林の恵みから生まれた牛乳パック」「牛乳パックリサイクル」などを紹介。「第6回牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の優秀作品を展示するとともに、表彰式も行いました。また全国パック連の協力による「手すきはがきづくり」のブースやNPO法人「集めて使うリサイクル協会」なども出展されました。

今年はクイズも実施し、来場者の方々に自然に牛乳パックやリサイクルへの興味が深まる楽しいイベントとすることができました。



にぎわうブース



新企画クイズコーナー



工作コンクール表彰式

牛乳パック再生品を販売し、「みどりの募金」に寄付しました。

【森林の市】

2006年4月29日(土)～30日(日)の両日、日比谷公園にれのき広場で、「平成18年度森林の市」が開催されました。全国各地から参加されている環境団体、学校、ボーイスカウトなどの団体とともに、容環協も出展しました。

牛乳パックリサイクルのパネル展示と自主グループ「たんぼぼ」の協力を得て牛乳パックを再利用した製品、工作・工芸などの作品の展示と実演を行い、希望される方々に牛乳パックの特質を体験していただきました。また、今年も再生紙メーカーの協力を得て、牛乳パックを原料とした再生品(トイレペーパー)をチャリティー販売し、売上金を「みどりの募金」に寄付しました。



過去最多の応募作品の中から、林杏奈さんが最優秀賞に!

全国の小学生を対象とした「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が今年も開催されました。過去最高の2,794件の応募の中から最優秀賞に選ばれたのは、林杏奈さん(兵庫県 小学3年生)の作品「あ～した 雨になぁ～れ」。完成度の高さに加え、実用性があり、耐水性・強度という牛乳紙パックの特性を活かしたことが、高く評価されました。また、全国牛乳容器環境協議会賞には、山本恭輔くん(千葉県 小学3年生)の作品「牛乳

最優秀賞作品「あ～した 雨になぁ～れ」



林杏奈さん(兵庫県 / 小学3年生)

受賞感想文

パックシアター」が選ばれました。

各受賞作品は「エコプロダクツ2006」(左ページ)で作品展示が行われるとともに、全国から各受賞者が集まり、展示してある自分たちの作品の前で、盛大に表彰式が行われました。なお、受賞作品は容環協の子ども向けホームページ「牛乳パック探検隊」(www.packun.jp)や日本テトラパック(株)のホームページでも紹介されています。



エコプロダクツ2006での表彰式

【原文】こんにちは。兵庫県姫路市立城西小学校三年、林杏奈です。第6回牛にゅうパック～コンクールにおいて、さいゆうしゅうしょうを授けようでき、うれしく思います。ふだんは、粗大ゴミに出すのがあたりまえだった牛にゅうパックでしたが、このコンクールを知り、物づくりにちょうせんしようと思いました。牛にゅうパックの持ちようとして水に強くそのまもの形をいかせばしょうぶで長持ちするのではと考え、カサ立てを思いつきました。工夫した所は、大人用、私用、弟用とそれぞれカサの長さがちがうので、つつの高さをかえました。水受けをつくりスライドしてとれるようにしました。カサたてがあてているように土台の中には、砂をいれています。牛にゅうパックどうしをつなげる時は、中にカセットケースをつめこむとパックがかたまりのようになり、セロテープでまきやすくなりました。一番やんだのが足のふんです。円のつつの足だけではカサの重みやゆれでとれてしまったので、新しくかんがえたのがつつの上と下に切れ目を入れて、タコのきゅうはんのようにひろげてくっつけることです。するとカサ入れと土台がすいつくようにあてていました。

工作の感想は・・・
お金をつかって物を買うより身近なそんざいの牛にゅうパックを使って、何日も何日もかけて自分の手で世界で一つだけの心こもった作品をつくりあげた、うれしさでいっぱいです。リサイクルにたいしての考え方を学ぶことができ、このコンクールに感しゃしています。2794作品みんなの気持ちこめて、かんげい者のみなさまありがとうございます。



容環協の取り組み

牛乳パックのリサイクルは地球環境を守る活動であることをメッセージ。

【環境メッセージ掲載キャンペーン】

毎年6月の環境月間と10月の3R推進月間に合わせ、牛乳パックに「うえる→そだてる→つかう→リサイクル」の環境メッセージを掲載し、紙パックの回収率をより向上させるためのキャンペーンを実施しています。イラストで、苗から始まり、リサイクル製品に変わる牛乳パックの一連のフローを示し、牛乳パックの原紙は、植えて、育てて、切ったらまた植える、という管理された森林資源を原料としており、枯渇するものではないとアピールしています。

このキャンペーンは2004年10月にスタートし、2006年10月で5回を数えました。今年のはべ43社の協力を得て、環境メッセージが掲載された牛乳パックは2ヵ月間で約2,500万本となっています。



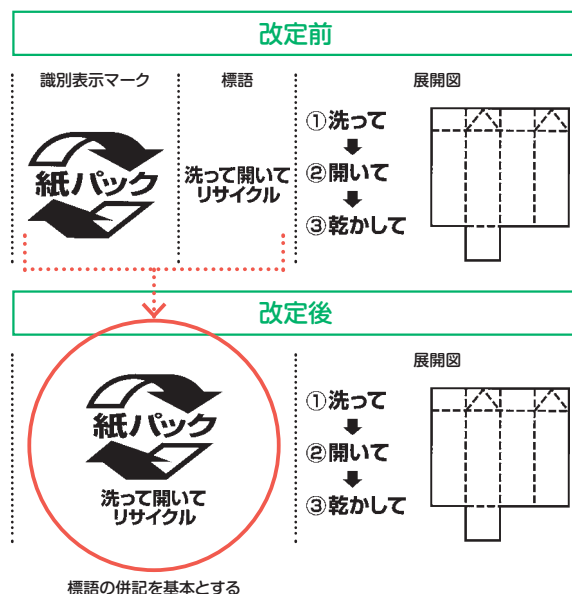
紙パックの識別マークのガイドラインを改定しました。

【ガイドラインの改定】

飲料用紙容器（アルミ利用を除く）、略称「紙パック」のリサイクル促進の一環として、容器包装リサイクル法の完全施行（平成12年4月）に対応して制定された識別マークのガイドラインを改定しました（2006年6月）。

従来は、識別マークの使用を基本とし、これに標語「洗って開いてリサイクル」と展開図を組み合わせて表示することを認めていました。その他の容器包装と識別することに加え、紙パックリサイクルをさらに啓発することを狙いとして、改定後のガイドラインでは識別マークに標語を組み合わせて使用することを基本としています。

また、これまでは環境メッセージ掲載キャンペーン時に、リサイクルに協力してくださっていることに対するお礼の意味をこめて、注ぎ口と反対側の面に掲載していた「リサイクルありがとう」の表示は、環境キャンペーンに限定せず通年で掲載することにいたしました。



消費者のみなさんに届くチラシでリサイクルを働きかけました。

【啓発チラシの配布】

牛乳パックのリサイクルを促進するために、チラシを用いて消費者の方に啓発活動を行っています。2006年に新たに作成したチラシをご紹介します。



回収率向上を目指して西播地域集中プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトを効果のあるものにするため、小売事業者からの提案で、回収ルールの徹底とリサイクルに感謝する気持ちを表現したチラシを作成しました。なお、回収ボックスの上に張り出せるB2判のポスターも作成しました。



会員各社の工場見学者や料理講習会等のイベントに集まっていた方々に配布し、リサイクルを促進するために作成しました。（社）日本乳業協会と全国牛乳パックの再利用を考える連絡会の連名ですが、希望によって各会社名を入れることが可能な共通チラシになっています。

食育イベントに参加。食と環境を考えるよい機会に。

【第3回「親子で楽しく食育体験」】

2006年8月26日（土）、27日（日）、東京都食育推進ネットワーク、農林水産省農政事務所主催の第3回「親子で楽しく食育体験」に、（社）日本乳業協会と共同で出展しました。会場となった東京・江東区の深川政府倉庫は、お米の巨大貯蔵施設で、管理された森林の恵みから生まれた紙パックのパネル展示、リサイクル製品、紙パックを利用した工作等を展示。「牛乳飲んでますか?」「飲み終わった紙パックは、リサイクルお願いしますね!」と来場者に呼びかけました。年配者から親子連れまで幅広い年齢の方が訪れ、お米倉庫探検やクイズラリー、ザリガニつりなどさまざまなイベントに触れながら、食育と環境について考える有意義な一日となりました。



展示ブース





容環協の取り組み

LCA調査

環境・リサイクル情報や活動報告をホームページで発信しています。

【ホームページによる情報提供】

2005年4月に将来3Rを担う子どもたちを対象にオープンした環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」。森林資源から牛乳パックが誕生し、飲み終わった後にリサイクルされ再生品になるまでを取り上げ、牛乳パックリサイクルの意義や環境とのかかわり、環境負荷を低減する提案などをキャラクター「牛乳パックン」を使ってわかりやすく解説しています。また容環協ホームページについては、毎月最新情報を掲載し、活動報告やリサイクルに関する内容を充実させています。

2006年11月末現在、「牛乳パックン探検隊」は累計でアクセス数約80,000、容環協ホームページは約250万で、多くの方にご覧いただくことで、活動啓発に役立っています。



牛乳パックン探検隊
http://www.packun.jp



全国牛乳容器環境協議会
http://www.yokankyo.jp

番組キャスター自らが手すきはがき作りに挑戦。

【ラジオ番組に協力】

2006年9月、日本酪農乳業協会(J-Milk)がスポンサーになっているニッポン放送「ミュウコミ サポーターズパーティー」で、牛乳パックを集め、手すきはがきを作るという企画があり、容環協よりエコプロダクツ展などでお世話になっている町田シルバー人材センターをご紹介します。取材協力しました。キャスター自らが作った牛乳パックの手すきはがきは、ちょっと遅めの残暑見舞いとして、リスナーのみなさんに届けられました。



紙パック回収の理解促進に役立つ説明会を開催。

【所沢市で説明会】

520あまりの集団回収登録団体がおり、活発な活動を行っている埼玉県所沢市の環境クリーン部廃棄物対策課の依頼により、「紙パックリサイクルの現状について」と題した説明会を行いました。現在、紙パックの収集を行っているのは20団体程度とのことですが、今回の説明会で紙パック回収への理解が増し、紙パックの回収に協力する団体が増えることを期待します。

日本の代表的な紙パック3種のLCIデータを整備しました。

容環協では、2003年度よりLCA^{※1}の調査委員会を編成、(財)政策科学研究所と協働で紙パックのLCIデータの構築を実施してきました。2004年度には、本調査の成果(途中経過)として、紙パックLCI調査委員会報告書をまとめて公表すると同時に、環境省が2002年度から3ヵ年事業として実施していた各種飲料容器のLCA調査事業にも情報やデータを提供しました。

引き続き2005年度には、目的を下記3点に絞ったLCIデータの整備を進め、このほど成果を報告書^{※2}にまとめることができました。

①コンビニエンスストアなどで販売量が増えている「屋根型500ml紙パック」や学校給食を中心に使用されている「屋根型200ml紙パック」といった新たな種類の紙パックに関するLCIデータの構築

②森林管理から紙パック原紙の製造プロセスに関するLCIデータの更新(2004年度の北米大手製紙メーカーのデータに加え北欧製紙メーカーのデータを収集)
③「屋根型1,000ml紙パック」製造プロセスに関するLCIデータの更新(大手紙パックメーカー3社・5工場)のデータを収集)

特に②、③は2004年度より対象事業者数を増やして、カバー率60%以上でデータを収集することによって、LCIデータの代表性を高めることを目指しました。

これらの成果の概要として、日本の代表的な紙パック(アルミを使用していないもの)3種類のLCIデータを下に示します。さらに詳細な内容が必要な方は、報告書を提供していますのでご参照ください。

資源採取・資源採掘から紙パック製造までを統合したインベントリデータ

カテゴリ	環境負荷項目	単位	紙パック1個あたりのインベントリ (資源採取・資源採掘から紙パック製造までを統合)			
			2005年度調査			2004年度調査 ^{※3}
			屋根型 1,000ml	屋根型 500ml	屋根型 200ml	屋根型 1,000ml
資源	木材資源消費量	kg	0.077245	0.053115	0.024557	0.078618
	水資源消費量	l	3.242429	2.226136	1.022418	3.409968
	化石資源消費量	MJ	0.205897	0.141579	0.065457	0.205902
エネルギー	エネルギー消費量	MJ	1.037322	0.713776	0.328979	1.024885
廃棄物	廃棄物排出量 ^{※4}	kg	0.002732	0.001866	0.000849	0.003209
	CO ₂ 排出量 ^{※5}	kg-CO ₂	0.026646	0.018214	0.008389	0.027551
大気圏排出	バイオマスCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	0.045533	0.031310	0.014475	0.036376
	NOx排出量	g-NOx	0.140242	0.095409	0.044641	0.117558
	SOx排出量	g-SOx	0.054232	0.037254	0.017210	0.038080
水圏排出	BOD排出量	g	0.034796	0.023927	0.011062	0.023830
	COD排出量	g	0.000150	0.000103	0.000048	0.000150
	SS排出量	g	0.051170	0.035186	0.016267	0.061752

※1 ライフサイクル・アセスメント

※2 2005年度全国牛乳容器環境協議会紙パックLCI調査委員会報告書～飲料用紙容器のインベントリデータに関する調査研究～(2006年11月・全国牛乳容器環境協議会発行)

※3 2004年度にも屋根型1,000mlインベントリデータを取りまとめており、参考に記載しました。

※4 廃棄物排出量は、各プロセスから排出されリサイクルや中間処理された後の埋立量です。

※5 CO₂排出量はバイオマス由来以外のものを対象としています。



2005年度の紙パック回収率

堅調に伸び続ける紙パックの回収率。2005年度は36.2%となりました。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2006年5月～11月に実施され、2005年度のリサイクルの状況が明らかになりました。

紙パック全体の回収率(産業損紙・古紙を含む)は36.2%と、前年度比+0.7ポイント増。また使用済み紙パック回収率(家庭系+学乳などの事業系)が25.8%(前年度比+0.9ポイント)と、回収率は堅調に伸びており、リサイクル活動が着実に拡大している結果となりました。

※2005年度の調査では、紙容器メーカー9社・飲料メーカー323社・小学校2,278校・1,928市町村・スーパーマーケット211社・製紙メーカー51社を調査対象としました。
 ※紙パックの製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材、在庫処分品などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
 ※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

2005年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙含む)

36.2%

(2004年度 35.5%)

=製紙メーカー国内受入量÷紙パック原紙国内使用量
 =91.3千トン÷252.4千トン

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

25.8%

(2004年度 24.9%)

=使用済み紙パック回収量÷紙パック出荷量
 =55.7千トン÷215.9千トン

紙パック古紙は、一貫して有価物として扱われています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長くて太いことなどから良質な再生紙原料といえます。このため、他の古紙よりも比較的高値で取引されています。

市町村回収、集団回収における紙パック古紙の取引価格は、取引先・引渡し方法別により若干の違いはありますが、平均価格は昨年度と変わりなく、また、個々の取引を見ても、全体の99%が有価もしくは無償で取引されています。

紙パック古紙の取引価格は、大きな変動がなく推移しています。

紙パック古紙の取引価格

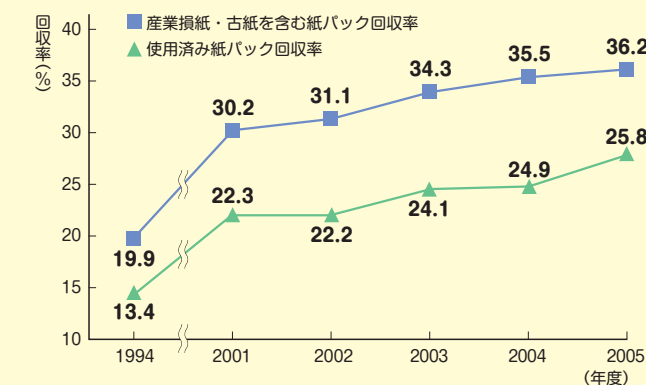
		引渡し	持ち込み
市町村回収	古紙回収業者	5.7	5.8
	古紙直納問屋	6.1	5.8
	製紙メーカー	6.0	7.9
集団回収		3.9	4.4

(円/kg)

使用済み紙パックの回収量が着実に増加しています。

右の図のように調査開始以来、紙パックの回収率は着実に伸びています。これを回収量で表したのが下の表です。2005年度の回収量は全体で91.3千トンと、前年に比べて3.8千トン(+4.3%)の増加。そのうち使用済み紙パックの増加は、2.5千トンでした。

紙パックの回収率の推移



主要データの推移 (千トン)

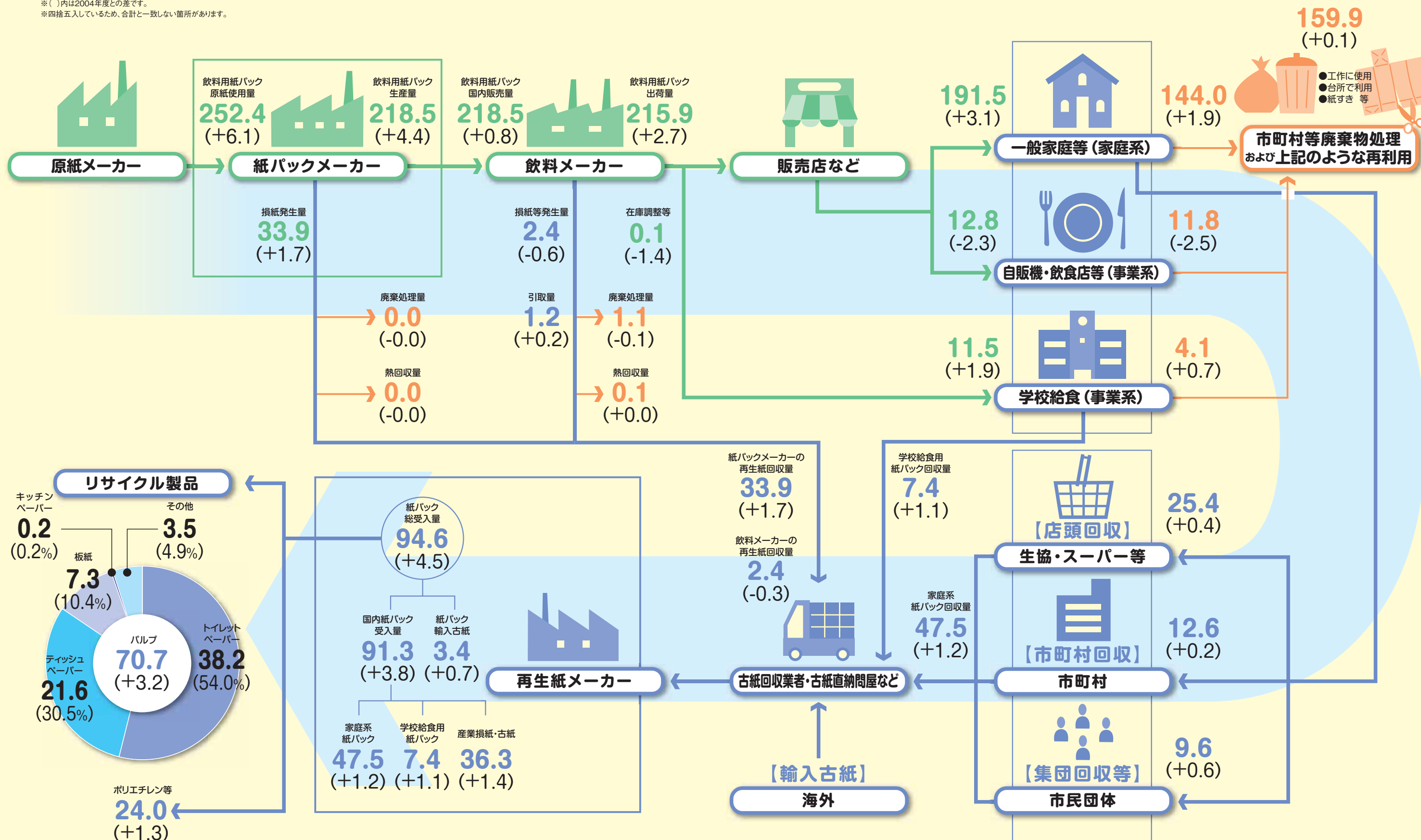
区分	1994年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	前年度比
飲料用紙パック原紙使用量 (A)	216.0	229.1	232.9	242.3	246.3	252.4	+2.5%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	22.4	26.4	30.7	32.2	33.9	+5.2%
飲料メーカー産業損紙発生量	-	2.7	4.1	4.4	3.0	2.4	-19.2%
飲料メーカーからの飲料用紙パック出荷量 (B)	197.9	203.2	198.2	204.6	213.2	215.9	+1.3%
家庭系 (C)	168.7	182.7	171.8	181.1	188.4	191.5	+1.7%
自販機等 (事業系)	18.5	11.0	16.5	13.6	15.2	12.8	-15.3%
学乳 (事業系)	10.7	9.5	9.9	9.9	9.6	11.5	+19.7%
使用済み紙パック回収量 (D)	26.5	45.3	44.0	49.3	53.2	55.7	+4.7%
店頭回収量	13.8	18.5	18.8	23.7	25.0	25.4	+1.7%
市町村回収量	4.3	12.0	12.0	11.9	12.3	12.6	+1.9%
集団回収量	7.8	10.0	9.1	8.7	9.0	9.6	+6.2%
学乳紙パック回収量 (E)	0.6	4.8	4.1	5.0	6.3	7.4	+18.2%
事務系紙パック回収量 (F)	-	-	-	-	0.6	0.7	+20.7%
産業損紙・古紙 紙パック回収量 (G)	16.5	23.8	28.5	33.7	34.3	35.6	+3.8%
紙パックメーカー回収量	16.5	22.2	26.4	30.3	32.2	33.9	+5.2%
飲料メーカー回収量	-	1.6	2.1	3.5	2.1	1.7	-18.7%
製紙メーカー国内紙パック受入量 (H)	43.0	69.1	72.5	83.1	87.5	91.3	+4.3%
紙パック古紙輸入量 (I)	-	9.6	7.2	15.7	2.7	3.4	+25.7%
製紙メーカー紙パック受入量 (J)	43.0	78.7	79.7	98.7	90.2	94.6	+4.9%
紙パック再資源化量 (K)	30.1	60.6	61.7	73.0	67.5	70.7	+4.7%
産業損紙を含む紙パック回収率 (H) / (A)	19.9%	30.2%	31.1%	34.3%	35.5%	36.2%	+0.6P
使用済み紙パック回収率 (D) / (B)	13.4%	22.3%	22.2%	24.1%	24.9%	25.8%	+0.8P
家庭系使用済み紙パック回収率 ((D)-(E)-(F)) / (C)	15.4%	22.2%	23.2%	24.5%	24.6%	24.8%	+0.2P

※(H)=(D)+(G)、(J)=(H)+(I)、(K)=(J)×(歩留率) 1994年度の歩留率は70%、2001年度以降はアンケート調査により求めています。
 ※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。※数値を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

2005年度 紙パックマテリアルフロー

2005年度の飲料用紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※()内は2004年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。





小売事業者のリサイクル状況

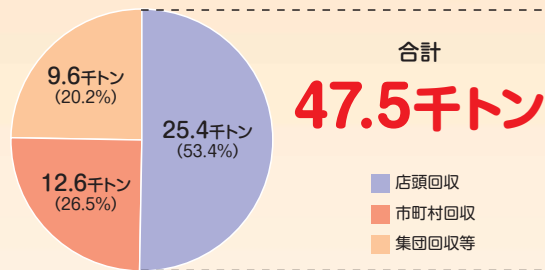
福祉作業所の回収状況

店頭回収における紙パック回収量は、全体の半分以上を占めています。

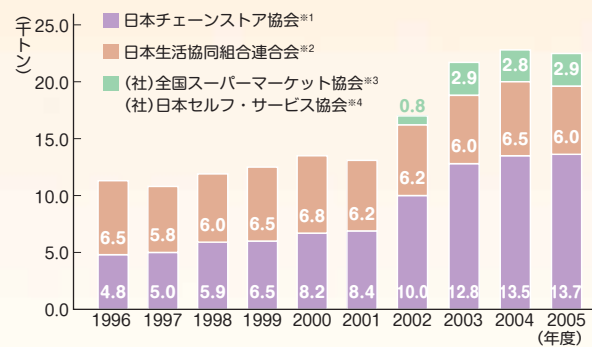
紙パックのリサイクル拠点として大きな役割を担うのが、小売事業者の店頭回収です。今回の調査でも家庭系紙パック回収量の53.4%にあたる25.4千トンを含めており、回収量も堅調に増加しています。

店頭回収は、1990年代より生協が紙パック回収運動の先駆者的な役割を果たしてきました。近年、大手ならびに中小スーパーマーケットでの回収量が増加しており、現在は、大手量販店が中心的な役割を担うようになっています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



店頭回収量の推移



※1: 大手量販店が会員の中心。2004年度の会員企業は94社、会員の総販売額は141,612億円。
 ※2: 全国のおよそ半分の生協が会員。2004年度の生協会員は572で、購買生協供給高は25,920億円。
 ※3: 中堅・中小スーパーマーケットが加盟する経済産業省所管の社団法人。2004年度会員数は410社。
 ※4: セルフ・サービス方式の販売形態を普及促進する経済産業省所管の社団法人。食品を中心とするスーパーマーケットが会員の90%を占めています。2005年8月時点の会員数は221社。

取り組んでいます! リサイクル

サミット株式会社

(東京都杉並区)

取組事例

関東1都3県に85店舗を展開する食品スーパーマーケットのサミット。2005年5月にISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得。お買い物袋持参運動やレジ袋の軽量化など、容器包装の削減にも積極的に取り組んでおり、レジ袋辞退率が20%を超えるなど、かなりの成果を上げています。

牛乳パックの店頭回収は1991年から始まり、94年には全店で導入、回収量も増加傾向です。スタート当初より全国パック連の運動が浸透していたこともあり、「洗って・開いて・乾かして」という回収ルールも定着しています。

なお、牛乳パックとアルミ缶の回収による売却代金を環境団体に寄付しており、牛乳パックの2006年度分755万円は「森林整備活動」と「間伐材を使ったつみ木の普及活動」の支援として、社会還元されました。

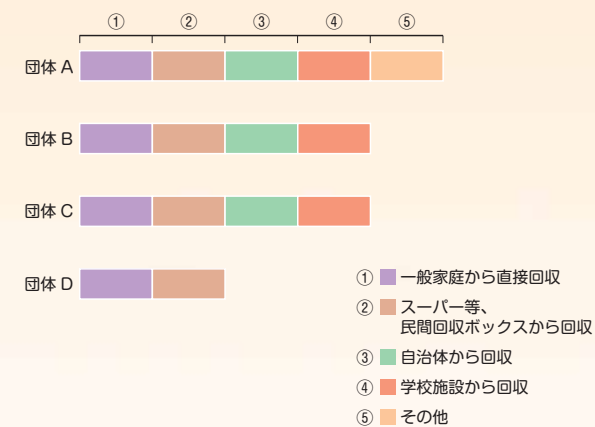


565トンの回収量が明らかに。さまざまな課題も挙げられています。

今年度の調査では、昨年度調査で把握された「奨励金等の自治体援助を受けておらず、年間10トン以上の回収実績がある」福祉作業所と市民団体を対象にアンケート調査を実施。4団体から回答を得た結果、565トンの回収量が明らかになりました。この回収量は集団回収分として今年度調査に計上されています。

回収先としては、4団体すべてで「一般家庭から直接回収」「民間回収ボックスから回収」と回答しており、自治体や学校施設から回収している団体もありました。また回収した紙パックは再生紙メーカーや回収業者に納入。課題として、ガソリン代高騰によるコスト増にもかかわらず取引価格が変わらないこと、回収ボックスにゴミの混入が見られることなどが挙げられています。

福祉作業所・市民団体の紙パック回収先



取り組んでいます! リサイクル

紙好き交流センター 麦の会

(大阪府交野市)

取組事例

紙パックを再利用した手すき紙を作成しているこの作業所は、障害を持つ仲間たちの紙すき技術を向上させる研修センターとして役割も担い、各地を巡回指導するなどして普及・指導にあたっています。

現在、活動を通じて全国400ヵ所以上の作業所・施設のネットワークを持ち、その結果、同じ企画・同じ品質の製品を一斉に作る事が可能に。多い時は1日に500kg以上の紙パックを利用し、1ヵ月間に50万枚以上の手すきはぎやカードができるようになりました。多くの人たちに「リサイクル手すき紙」の良さを理解していただけるように日々努力していますが、小さな作業所・施設の集まりなので、なかなかPRがうまくできないのが現状。仲間たちの仕事作り、経済的自立に向けて、さまざまな方たちにご協力していただくことを願っています。





市町村回収・集団回収の状況

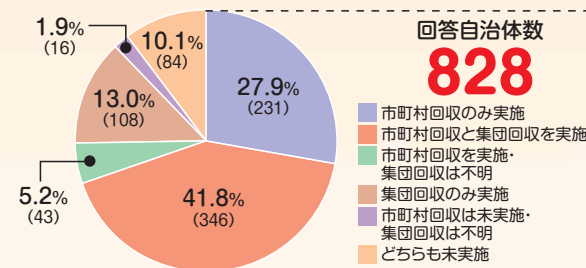
自治体における回収が
確実に増えています。

本調査では、市町村や一部事務組合等が行う収集運搬・処理を「市町村回収」、市町村に指定された住民団体による回収を「集団回収」としています。

今回、回答のあった828自治体のうち、87.9%にあたる728自治体が市町村回収または集団回収を行っています。これは昨年比2.9ポイント増で、逆にどちらも実施していない自治体は10.1%と、前年度に比べ2.6ポイント減少しています。

中でも市(政令指定都市と特別区)における実施数は、90年代半ばと比べると市町村回収で約3倍、集団回収で約1.5倍に増加しています。これは1995年に成立した容器包装リサイクル法の影響で市町村回収が急増し、現在ではともに紙パック回収の大きなチャネルになっていることがわかります。

市町村回収と集団回収の実施率

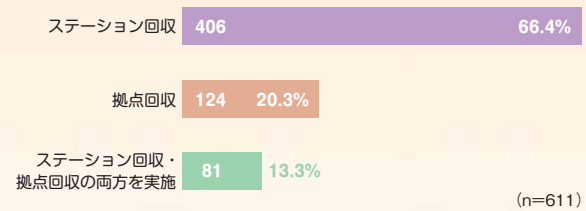


回収方法はステーション
方式が8割。回収対象が
今後の課題。

市町村での回収方法を見てみると、ステーション回収(戸別回収を含む分別収集)と拠点回収の2つの方式に分けられます。ステーション回収は拠点回収に比べ利用者の利便性の良いことから、全体の8割近くで実施されています。

ところで今回、各自治体で紙パックをどのような呼び名で回収しているかを調査したところ、「紙パック」が65.3%、「牛乳パック」が28.5%、飲料パックなど「その他」が6.2%でした。また回収対象容器については、1,000ml牛乳パックは100%回収対象とされていますが、500mlや小型の牛乳パック、清涼飲料の紙パック全般は回収対象から外れるケースもあります。特に「牛乳パック」という呼び名で回収している自治体では、その傾向が顕著で、今後の課題といえそうです。

紙パックの市町村回収の方式



紙パックで回収対象としている容器

	1,000ml	500ml	小型
牛乳	100%	95%	73%
清涼飲料	89%	86%	67%

(n=609)

回収量において
他の都市累計を牽引する
一般市、町村。

回収量は、「一般市」「政令指定都市」「特別区」「町村」に分けて集計しており、推計回収量は市町村回収12.6千トン、集団回収9.0千トンでした。その内訳を記したものが下の表です。

人口の66%を占めている「一般市」が市町村回収では回収量全体の68%を、集団回収では74%を占めており、例年通り、他の都市類型を牽引しています。また政令指定都市と特別区は人口比率に比べ、回収量比率が低い一方で、町村はその割合が高く、1人あたりの回収量にも都市類型ごとに関係があることがわかります。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

		全体	一般市	政令指定都市	特別区	町村
市町村回収	推計量(千トン)	12.6	8.6	1.4	0.6	2.0
	都市類型別回収比率	100%	68%	12%	5%	16%
	1人あたりの回収量(kg/人)	0.10	0.10	0.07	0.07	0.14
集団回収	推計量(千トン)	9.0	6.7	1.2	0.1	1.0
	都市類型別回収比率	100%	74%	13%	2%	11%
	1人あたりの回収量(kg/人)	0.071	0.080	0.057	0.017	0.069
都市類型人口比率		100%	66%	17%	6%	11%

取り組んでいます! リサイクル

三重県桑名市

取組事例

桑名市では各自治会が主体となって毎月1回、資源回収を行っています。この回収は平成4年に市内モデル地区19ヵ所でスタートし、現在は474ヵ所に拡大。5種(紙類、布類、カン、ビン、ペット)、13品目(牛乳パック、衣服、ペット類等)を回収しています。また自治会による資源回収の補完措置として、平成14年より週1回(主に土曜または日曜の午前中)、市内8ヵ所のスーパーのご好意により駐車場を活用しての回収も実施しています。

地元回収業者さんに桑名市内の自治会回収場所をご案内いただき、朝早くから各品目ごとに分別した資源を出す様子を見せていただきました。小さな子どもさんも13品目の分別のお手伝いをしていました。フレコンバッグは月1回の回収日前日に配付され、当日ユニック車で回収されるシステムです。





学校のリサイクル状況

再生紙メーカーのリサイクル状況

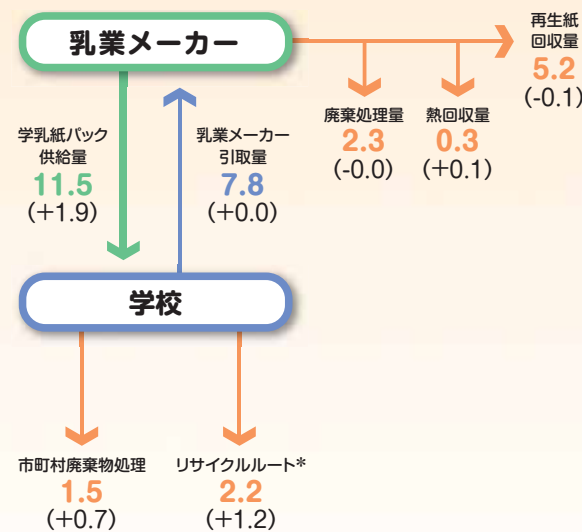
「洗って・開いて・乾かして」は
学校でも年々定着。

2005年度に学乳紙パックとして使用された紙パックは11.5千トン(前年度比1.9千トン増)で、その64.5%にあたる7.4千トンが再生紙原料として回収されました。それらの内訳を記したマテリアルフローが下図です。乳業メーカーに引渡しされる量は昨年と変わりませんが、学校から直接リサイクルルートへ回す量と市町村廃棄物処理分が増加しています。*

なお引渡し時に紙パックを「洗浄・乾燥」している学校は32.8%と、前年より4.7ポイント増で、「洗って・開いて・乾かして」が年々定着してきていることがわかります。また「洗浄」のみ実施の学校は9.0%ありました。

※2005年度のLCI調査に基づき、学乳紙パックの原単位を7.55g/個から8.59g/個に見直したため。

学乳紙パックのマテリアルフロー(推計値)



*古紙回収業者、製紙メーカー、市町村の資源ゴミ収集、市民団体など
※単位：千トン
※()内は2004年度推計値との差です。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

神奈川県立海老名高校 (神奈川県海老名市)

取組事例 神奈川県教育委員会の「環境教育推進拠点校」に指定されている海老名高校では、校内に環境委員会の委員長を大統領とする「省エネ共和国」を建国し、積極的に環境活動に取り組んでいます。機関紙「省エネ時代」の発行や太陽光発電や風力発電の装置の設置、紙パックの売却益でタイの障害者に車椅子を寄贈するなど、ユニークで熱心な活動は注目の的で、テレビ神奈川でも放映されました。

またその成果を発表する場として、2006年6月には元国連職員の上村雄彦さんを講師に迎えた環境講演会に合わせ、環境委員会が中心となった施設見学会が開催されました。当日は容環協の事務局・専門委員と環境委員会のメンバーで、紙パックの特徴や校内での回収の苦労話等の意見交換を行いました。

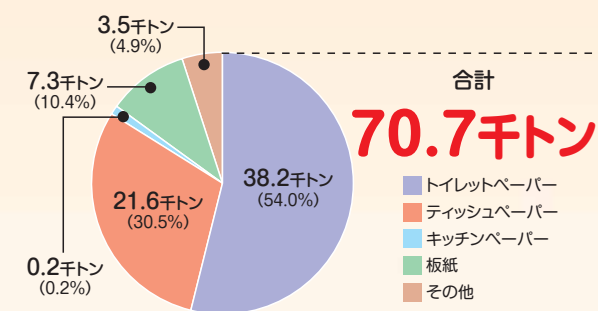


多くがトイレトペーパーなどの
リサイクル製品として
使われています。

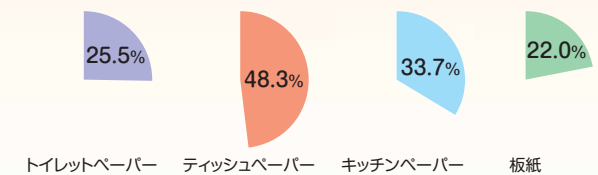
本年度調査では紙パックの受け入れが確認されている51社を対象に行い、27社から回答を得ました。

27社中、21社が紙パック損紙・古紙を受け入れており、10社は紙パック損紙・古紙を原料とした再生パルプを購入しています。また再資源化量は70.7千トンで、半分以上がトイレトペーパーに、次いでティッシュペーパーや板紙などのリサイクル製品に利用されています。特にトイレトペーパーへの利用は、2004年度と比べ2.5千トンの増加となっており、リサイクル製品の多くを占めています。

リサイクル製品への利用状況



リサイクル製品への紙パックの平均配合率



取り組んでいます! リサイクル

三栄レギュレーター株式会社 東京工場 (神奈川県川崎市)

取組事例 当工場は、国が推進する資源循環型社会のモデルプロジェクト第1号で、2003年に世界初の「ゼロ・エミッション」を実現した環境先進製紙工場として建設されました。また建設地である川崎ゼロ・エミッション工業団地では、団地内の各企業が環境負荷の軽減に努め、連携して排出物を出さないシステムを構築しています。

工場内には世界最先端の「循環型製紙ライン」を擁し、牛乳パックに使用されているポリエチレンもボイラー燃料の一部として利用されています。処理量は川崎市、京浜地区、並びに周辺の学校・事業者・官公庁から発生する牛乳パック、古紙類など月間7,000トンで毎日約100万個(100トン)ものトイレトペーパーを生産。また再生紙メーカー各社とも、容環協を介して、意見交換や知識収集など、積極的に交流しています。



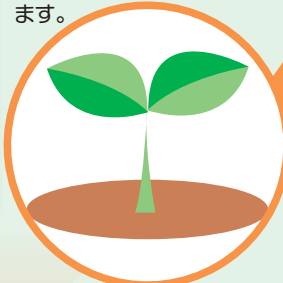


「森林のライフサイクル」と「紙パックリサイクル」



うえる

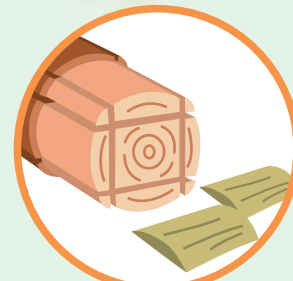
母木から種子を採り、幼苗生育場で大量に育て、伐採地に計画的に植え付けていきます。



【建材の集積場所】
建材や家具材に使用します。



つかう



伐採された木は、主として建材や家具として利用されます。間伐材の細いものや建材の端材、枝をチップにして、紙の原料として利用します。針葉樹は繊維が長く、牛乳容器の加工や強度に適しています。

リサイクル製品に



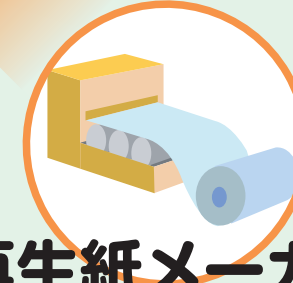
回収業者・古紙問屋

紙パックを選別して、再生紙メーカーに輸送します。



再生紙メーカー

ラミネート部分を取り除き、パルプ分を再溶解します。この時インクの残り等を除いて、きれいなパルプに作り上げて、トイレトペーパーなどのリサイクル製品にします。



回収



回収方法には、スーパー等の店頭回収、市町村回収、市民団体等による集団回収や学校等での回収があります。

森林のライフサイクル

紙パックの原料は枯渇しません。

紙パックの原料となるのは、北米や北欧の針葉樹です。これらの森林では、森林認証などで管理され、伐採、幼苗の植え付け、育成と計画的に行われています。森林は50～100年のサイクルで再生されています。

そだてる



北米の針葉樹は約50～80年、北欧では約70～100年、間伐などをして管理、育生されます。これらの森林は、森林認証などを受けて自然を生かした適切な森林管理が行われています。



紙パック

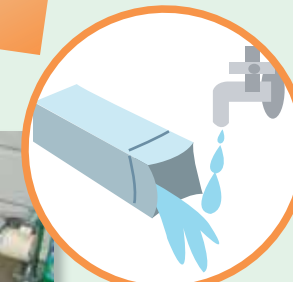
紙パックとは、牛乳容器、乳飲料容器、ジュース等の容器で内側にアルミのないものをいいます。

紙パックのリサイクル

飲み終わった紙パックは、リサイクル製品に変わります。

紙パックのリサイクルは、「洗って・開いて・乾かして」きちんと処理することで、資源として再生します。紙パックは再生紙メーカーに集められ、トイレトペーパーやティッシュペーパーに生まれ変わります。

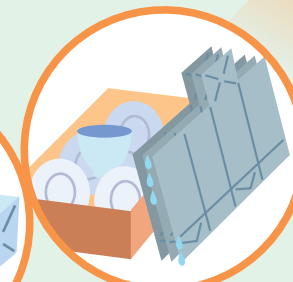
洗って



開いて



乾かして





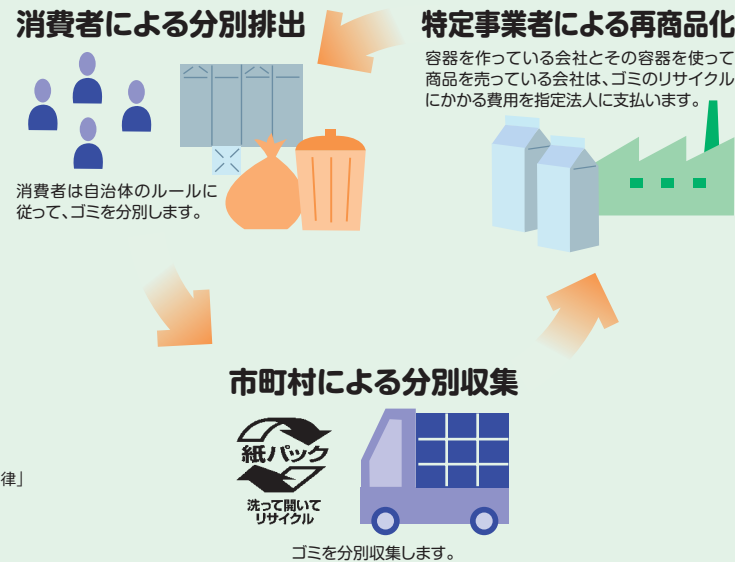
制定の背景

日常生活から排出される一般廃棄物が大きな社会問題となる中、容積比で約60%を占める「容器包装廃棄物」の減量化、再資源化が急務となり、1995年「容器包装リサイクル法^{※1}」は誕生しました。これは廃棄物のリサイクルシステムを確立するため、消費者、市町村、事業者のそれぞれの役割分担を規定するものです。

廃棄物の有効な対応は、3R「リデュース」「リユース」「リサイクル」の推進で、廃棄物の排出抑制と再商品化の推進が重要なのです。

※1 正式には「包装容器に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」

容器包装リサイクル法における役割分担



2006年6月に改正された「改正容器包装リサイクル法」

ところで容器包装リサイクル法は、施行後10年で見直しを行うことが決められており、中央環境審議会と産業構造審議会等で評価と見直しが行われた結果、2006年6月に「改正容器包装リサイクル法^{※2}」が成立、公布されました。

改正の主なポイントは①レジ袋、紙製手提げ袋の減量等の排出抑制、②再商品化の合理化による事業者の再商品化費用の見込み差額の市町村配分の創設、③ただ乗り事業者への罰則強化などです。

業界の自主的活動としては3Rのいっそうの推進および国・自治体・事業者・国民等すべての関係者が連携して推進するという観点から、容器包装関連8団体が協働して取り組むことになりました。容環協は飲料用紙容器リサイクル協議会の実務を担っており、右に示した2010年度目標を推進します。

※2 正式には「包装容器に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律の一部を改正する法律」

飲料用紙容器リサイクル協議会 2010年度目標

リデュース

- 新たな技術開発等を行い、2004年度実績比で1%軽量化する。

リサイクル

- 回収率50%以上を達成する。
- 「回収ボックス」拠点を10,000カ所以上に拡大する。
- 識別表示実施率を98%以上維持する。



あゆみ

● 全国牛乳容器環境協議会のあゆみ ● 全国牛乳パックの再利用を考える連絡会のあゆみ ● 連携強化活動

年度	あゆみ	社会の動き(関係法)
1984年	● ものの命の大切さを子どもたちに伝えたいと山梨県の主婦グループが牛乳パック再利用運動を開始	
1985年	● 「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」発足	
1987年	● 第1回「牛乳パックの再利用を考える全国大会」開催(大月市)	
1992年	● 全国牛乳容器環境協議会設立 ● 第6回全国大会にて牛乳パック再利用マークを決定(北九州市)	
1993年	● 林野庁主催「森林の市」に出展(以降毎年出展)	● 環境基本法制定
1994年	● 第1回「手すきはがきコンテスト」	
1995年	● 「飲料用紙容器(紙パック)リサイクルの現状と動向に関する基本調査」開始(2001年までは、隔年実施、2001年以降毎年実施) ● 全国パック連10周年記念大会開催	● 容器包装リサイクル法制定
1996年	● 「飲料用紙容器リサイクル協議会」発足	
1997年		● 容器包装リサイクル法の施行
1998年	● 学校給食用牛乳パックのリサイクル推進モデル事業を開始(北海道) ● 学校給食用牛乳パック等の回収・再商品化システム構築のための実験プロジェクトの実施(福岡・兵庫) ● 飲料用紙容器の回収促進のための懇談会の開催(石川・大阪・熊本・愛媛)	
1999年	● 牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(神奈川・愛知・岩手・北海道・福岡・岡山)	
2000年	● 紙パック識別マーク自主制定 ● 自治体用飲料用紙パックリサイクル手引書作成配付 ● 飲料用紙容器のリサイクル促進のための勉強会開催 ● 市民と事業者で作る飲料用紙パックの効率的回収システム研究会の主催 ● 飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会開始	● 容器包装リサイクル法完全施行 ● 循環型社会形成推進基本法制定 ● 資源有効利用促進法制定
2001年	● 牛乳パック回収拠点拡大運動の展開(回収ボックスを各地域へ提供)	● グリーン購入法、食品リサイクル法、家電リサイクル法等、施行
2002年	● 全国牛乳容器環境協議会10周年記念シンポジウム開催 ● 紙パック回収拠点10,000カ所拡大活動開始 ● 紙パックのライフサイクルアセスメント(LCA)調査開始(以降継続実施) ● 牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(岐阜・大阪・埼玉)	
2003年	● 北米における紙パックLCA調査実施 ● 牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(熊本・八戸・長野)	● 自動車リサイクル法一部施行
2004年	● 環境キャンペーン開始(毎年、環境月間、3R月間に実施) ● 牛乳パックリサイクル講習会の開催(沖縄) ● 牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(静岡、福井、沖縄、群馬、島根)	● 容器包装リサイクル法見直し審議開始
2005年	● 紙パック回収率新目標:2010年度50%以上を設定 ● 子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パック探検隊」開設 ● 啓発展示用「メッセージBOXキット」提供開始 ● 西播プロジェクト(地域回収システム構築)開始 ● 北欧における紙パックLCA調査およびEUの紙パックリサイクル団体との連携、情報交換実施 ● 牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(兵庫、徳島、宮城、大分、広島) ● 牛乳パックリサイクル講習会の開催(山梨、埼玉、大阪、別府、西宮) ● 牛乳パックリサイクル促進地域会議報告書発刊 ● 2005年度北欧視察報告書発刊 ● 容器包装の3R推進のための自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会)	● 容器包装リサイクル法見直し中間取りまとめ ● パブリックコメント(8月)
2006年	● 牛乳パックリサイクル促進地域会議開催(京都、千葉、高知) ● 牛乳パックリサイクル講習会開催(大阪、旭川、豊洲、筑西、松山、高知) ● 全国パック連環境保全功労者賞を環境大臣より受賞 ● 全国パック連20周年記念集会	● 容器包装リサイクル法の改正、立法化



会員一覧

団体会員

(社)日本乳業協会
(社)日本酪農乳業協会
(社)全国農協乳業協会
全国乳業協同組合連合会

飲料用紙容器メーカー

日本紙パック(株)
日本テトラパック(株)
アイピーアイ(株)
大日本印刷(株)
凸版印刷(株)
北越パッケージ(株)
東京製紙(株)

乳業メーカー

【北海道】
よつ葉乳業(株)
サツラク農業協同組合
北海道保証牛乳(株)
新札幌乳業(株)
くみあい乳業(株)
旭川ヤクルト(株)
北海道乳業(株)
(株)函館酪農公社
(株)北海道酪農公社
(有)町村農場
倉島乳業(株)
(株)豊富牛乳公社

【青森県】
萩原乳業(株)

【岩手県】
不二家乳業(株)
大船渡乳業(株)

【宮城県】
東北グリコ乳業(株)
宮酪乳業(株)
古川乳業(株)
山田乳業(株)
みちのくミルク(株)

【秋田県】
秋田協同乳業(株)

【福島県】
福島県酪農協同組合乳業部郡山工場
東北協同乳業(株)
会津中央乳業(株)

松永牛乳(株)

【山形県】
日本製乳(株)
庄内農協乳業(株)
富士乳業(株)
(有)後藤牧場

【茨城県】
茨城乳業(株)
トモエ乳業(株)
いばらく乳業(株)
関東乳業(株)

【栃木県】
酪農とちぎ農業協同組合
栃酪乳業(株)
針谷乳業(株)
栃木明治牛乳(株)
栃木乳業(株)
ホウライ(株)乳業事業本部

【群馬県】
榛名酪農協同組合連合会
東毛酪農協同組合
群馬牛乳協業組合

【埼玉県】
森乳業(株)
西武酪農乳業(株)
埼玉酪農協同組合
秩父乳業(株)
大沢牛乳(株)

【千葉県】
古谷乳業(株)
千葉北部酪農協同組合
南房総みるく農業協同組合鴨川工場
千葉酪農協同組合
千葉明治牛乳(株)

【東京都】
明治乳業(株)
森永乳業(株)
協同乳業(株)
グリコ乳業(株)
小岩井乳業(株)
興真乳業(株)
日本ミルクコミュニティ(株)

【神奈川県】
タカナシ乳業(株)
横浜乳業(株)
近藤乳業(株)

足柄乳業(株)
(有)協同牛乳

【長野県】
信州ミルクランド(株)
八ヶ岳乳業(株)
(株)横内新生ミルク
(有)松田乳業

【新潟県】
新潟県酪農協同組合
原田乳業(株)
(株)塚田牛乳
(株)佐渡乳業
塚田乳業(株)

【富山県】
(株)ふたば牛乳
となみ乳業協同組合
日本海乳業(株)
黒東乳業

【石川県】
小松牛乳(株)
北陸乳業(株)

【福井県】
森永北陸乳業(株)

【岐阜県】
飛騨酪農協同組合
太洋乳業協同組合
(有)牧成舎
関牛乳(株)
東海牛乳(株)
美濃酪農協同組合連合会

【静岡県】
静岡市長田酪農協同組合
清水乳業(株)
引佐酪農協同組合
函南東部酪農協同組合
東海明治(株)
朝霧乳業(株)

【愛知県】
名古屋牛乳(株)
みどり乳業(株)
名古屋製酪(株)
中央製乳(株)
豊田乳業(株)
中部乳業(株)
(有)愛知兄弟社
常滑牛乳(資)

昭和牛乳(株)

【三重県】
大内山酪農協同組合
(有)宮崎牧場

【京都府】
平林乳業(株)
京都酪農協同組合酪農センター

【大阪府】
泉南乳業(株)
日本酪農協同(株)
高田乳業(株)
ビタミン乳業(株)
大阪保証牛乳(株)

【兵庫県】
兵庫丹但酪農協同組合
宝塚食品(株)
近畿グリコ乳業(株)
三原郡酪農協同組合

【鳥取県】
大山乳業協同組合

【島根県】
木次乳業(有)
安来乳業(株)
横田牛乳店
(有)養益舎

【岡山県】
オハヨー乳業(株)
梶原乳業(株)
蒜山酪農協同組合
岡山県西部酪農協同組合

【広島県】
山陽乳業(株)
東洋乳業(株)
広島協同乳業(株)
野村乳業(株)
チチヤス(株)

【山口県】
やまぐち酪農乳業(株)
防府酪農協同組合
西本牧場

【香川県】
肥田乳業(有)
四国明治乳業(株)

【愛媛県】
四国乳業(株)

【高知県】
ひまわり乳業(株)

【福岡県】
ニシラク乳業(株)
オーム乳業(株)
永利牛乳(株)
九州森永乳業(株)

【長崎県】
島原地方酪農協

【熊本県】
熊本県酪農協同組合連合会
熊本乳業(株)
球磨酪農協同組合
阿蘇酪農協同組合
(資)堀田功乳舎

【大分県】
九州乳業(株)
下郷酪農協同組合
(有)古山乳業

【宮崎県】
南日本酪農協同(株)
森永宮崎乳業(株)

【鹿児島県】
鹿児島酪農乳業(株)

【沖縄県】
沖縄明治乳業(株)
沖縄森永乳業(株)
宮古アサヒ乳業(株)
マリヤ乳業(株)
八重山ゲンキ乳業(株)
(資)宮古ゲンキ乳業(株)
宮平乳業

賛助会員
王子古紙パルプセンター(株)
西日本衛材(株)
(株)日誠産業
北上製紙(株)
(株)日本製紙クレシア
大和板紙(株)
信栄製紙(株)
丸富製紙(株)
(株)山田洋治商店

全国牛乳容器環境協議会

所在地 〒102-0073
東京都千代田区九段北1-14-9 乳業会館
TEL. 03-3264-3903 FAX. 03-3261-9176
URL. <http://www.yokankyo.jp>
<http://www.packun.jp>

設立 1992年8月31日

事業概要

- 環境保全、再資源化など環境問題の啓発活動への協力
- 牛乳等容器の環境問題に関する知識の普及
- 牛乳等の紙容器再資源化運動への協力
- 牛乳等容器の環境問題に関する各種調査、研究およびその支援
- その他必要な事業

主な活動

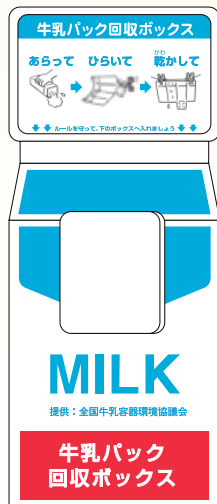
- 牛乳等紙容器の普及啓発情報提供(消費者、市町村、学校等)
- 牛乳等の紙容器再資源化運動への協力(市民団体)
- 紙容器、使用済み紙容器の再資源化等の技術調査、国内外視察(リサイクル政策、森林管理、再生紙メーカー)、海外文献紹介
- 飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査
- 行政、関係する他の団体との連携
- 会員への情報提供

牛乳メーカーと紙容器メーカーが協力し、
紙容器にかかわる環境保全に取り組んでいます。

全国牛乳容器環境協議会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-19 乳業会館
TEL. 03-3264-3903 FAX. 03-3261-9176
ホームページアドレス <http://www.yokankyo.jp>
牛乳パックン探検隊 <http://www.packun.jp>

牛乳パック回収ボックスを差し上げます!



全国10,000カ所以上の回収拠点作りを目指して

牛乳パックの回収率向上には、新しい回収拠点を生活エリアに数多く設けることが不可欠です。そこで全国牛乳容器環境協議会は全国パック連と、軽くて便利な牛乳パック回収ボックスを制作。10,000カ所以上の新規回収拠点を作ることを目標に、全国各地で設置運動を進めています。

パック回収をしている回収団体のみなさまへ

学校・自治体・公共施設、商店や銀行、郵便局など、回収ボックス設置のお願いに回ると同時に、定期的に回収できるシステムを作ってください。回収先がわからない時は、地元自治体・行政窓口にお問い合わせください。

お問い合わせは下記まで

〈全国パック連事務局〉
TEL. 03-3360-1098 FAX. 03-3360-7090
〒164-0003 東京都中野区東中野4-6-7-201



本誌は環境へのやさしさに配慮して、牛乳等紙パックの再生紙・大豆油インクを使用しています。